

登別市グリーンスローモビリティ運行

Green Slow Mobility.

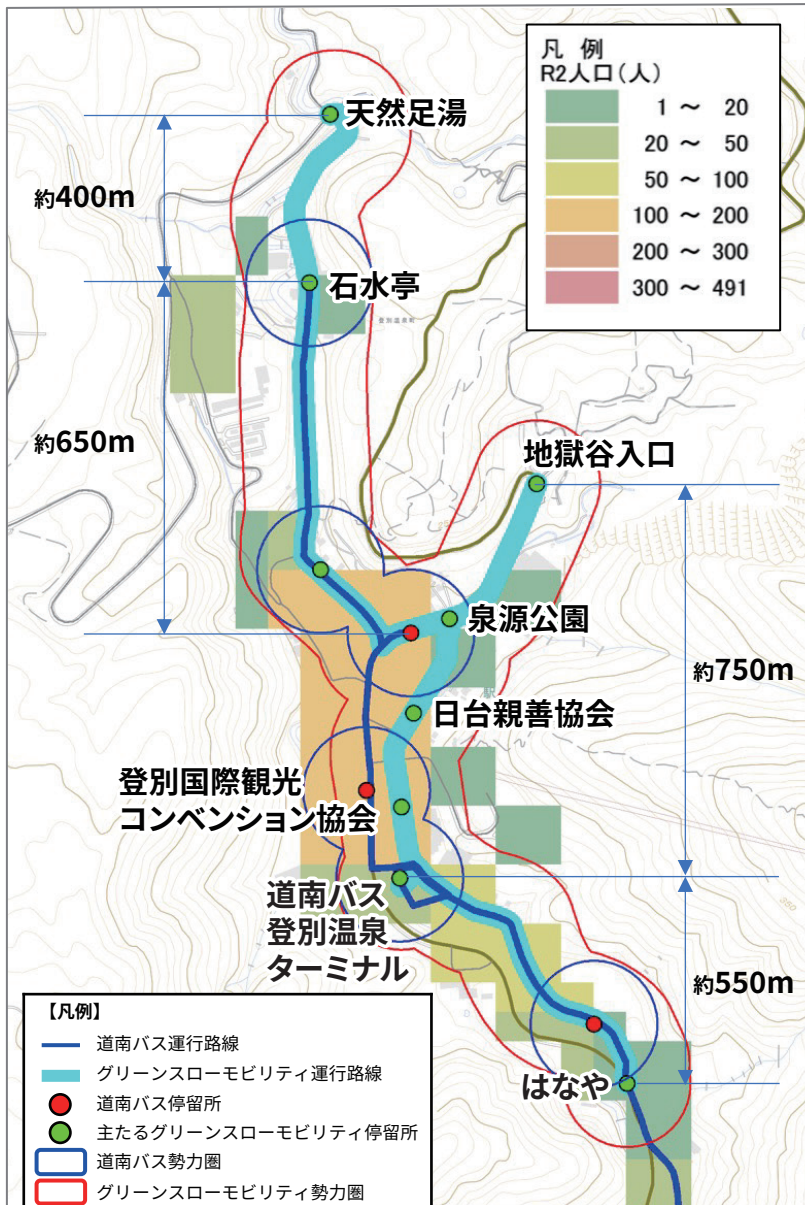
地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の申請に係る
グリーンスローモビリティの位置づけについて



北海道登別市

[R5.2.16]

1 グリーンスローモビリティ運行地域の状況



運行モード	温泉街地域人口	勢力圏人口	空白地人口	空白地割合
現状の道南バス 運行路線	676人	329人	347人	51.3%



グリーンスローモビリティを
運行させた場合 | 空白地人口 347 人であり、温泉街に居住する
市民の生活移動の足の確保が問題

運行モード	温泉街地域人口	勢力圏人口	空白地人口	空白地割合
現状の道南バス 運行路線 + グリーンスローモビリティ 運行路線	676人	472人	204人	30.2%

道南バス路線による勢力圏人口に加え、143 人の市民の生活移動の足の確保が可能となり、温泉街に居住する市民のより自由な移動の確保に寄与

《補足情報 - フィーダーの新規性要件 (キロ程の側面から)》

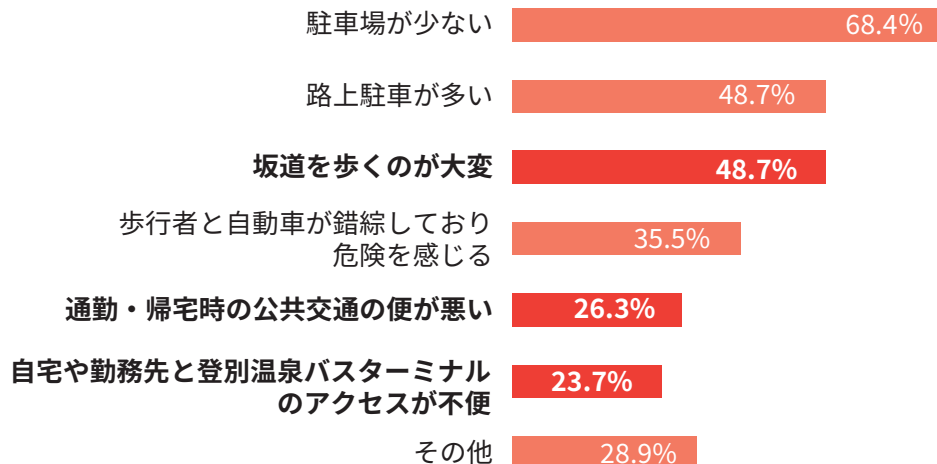
- ・現状の道南バス運行路線の温泉街運行キロ : 1.8km
- ・グリーンスローモビリティ運行路線の温泉街運行キロ : 2.4km※
- ※うち現状の道南バス運行路線以外の運行キロ : 1.2km

フィーダー新規性要件 (①or②の該当が必要)

- ①現状の道南バス運行路線キロ程 1.8km の 20% (0.36km) 以上の変更が必要
- ②3km 以上の変更が必要

→ $0.36\text{km} < 1.2\text{km} < 3.0\text{km}$ (フィーダー新規性要件①に該当)

図 登別温泉地区の交通課題



グリーンスローモビリティの利用意向

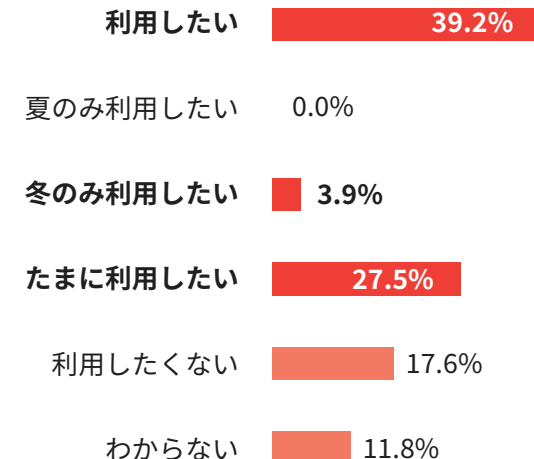
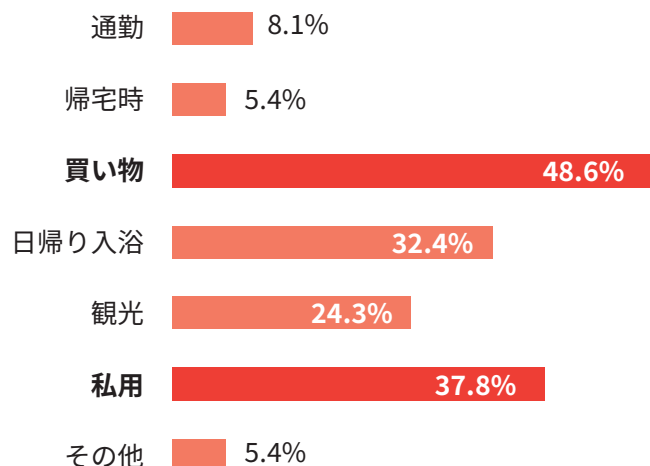


図 グリーンスローモビリティの利用目的



《住民ニーズ》

- ・グリーンスローモビリティ運行地域に居住する住民のニーズとして、「坂道を歩くのが大変」や「通勤・帰宅時の公共交通の便が悪い」、「自宅や勤務先と登別バスターミナルのアクセスが不便」などの交通課題が浮き彫りに
- ・グリーンスローモビリティの利用意向としては、利用したいとする割合が約7割（39.2%+3.9%+27.5%）
- ・グリーンスローモビリティの利用目的は、買い物（48.6%）及び私用（37.8%）などの日常生活移動で利用したいとの要望

グリンスローモビリティの運行経路を路線バス車両で運行することの可否について

- ・「地獄谷入り口」へは、折り返し時の転回場所が十分に確保できないことが想定されるため、路線バス車両での運行は難しい状況
- ・極楽通は歩行者が多いため、路線バス車両の通行が困難
- ・上記のことから、既存路線の拡大などでは、住民等のニーズへの対応が難しいと認識している。



【結論】

グリンスローモビリティの運行は
観光者の周遊性を高めるだけでなく、
生活交通として市民の安全で安心な移動
を支援する面からも有効

《補足情報 - グリンスローモビリティ運行区間の道路状況》

- ・極楽通は、道路幅員 14mとなっており、大型車がすれ違うことも可能であるが、商店街であるため、歩行者が多く停車帯を歩く観光客や荷捌き等の路上駐車が多い区間であり、路線バスの通行は難しい道路である。

